

---

# 星のカービィ ～イメージ世界の冒険～

ゲーム

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

星のカービィ ～イメージ世界の冒険～

### 【Nコード】

N6470I

### 【作者名】

ゲーム

### 【あらすじ】

イメージ世界に大事件が発生する。世界を救うべく、カービィは様々な世界を巡る！！いくつもの世界を救い、その瞳は何を見る……？

## 1話「全ての始まり」（前書き）

読む前に…

- ・口調や性格等が、公式とかと違うという時があります。
- ・はっきり言って、下手です。
- ・更新が非常にゆっくりです。

それでも大丈夫という方のみ、読んで下さい。

## 1話「全ての始まり」

☆カービィの家☆

カービィ「あゝ…暇だな…」

カービィは、少し退屈していた。

カービィ「なにか、起きないかな…」

グーイ「そんなこと言っちゃだめですよ、カービィさん!!」

カービィ「いや、別に事件が起こってほしいとかそういう意味じゃなくて…」

グーイ「なら、いいですけど…」

事件とは何故か、こういった時に起こりやすい。

アナウンサー「臨時ニュースです!! 只今プブレッジにおいて、モンスターが出現しました!」

カービィ「……………本当に起きたね…」

グーイ「……………だね…」

そのモンスターは暴れてるらしいので、早速倒すことにした。

カービィ「久々のバトルか……行こう、グーイ!!」

グーイ「はい！カービィさん！！」

☆ププビレッジ☆

カービィ「……グーイ、これって一体……？」

グーイ「僕に聞かないで下さい！」

カービィ達が驚いたのも無理なかった。見たことのない敵がかなりいたからだ。

カービィ「よく分からないけど……とにかく、倒そう！！」

グーイ「一応悪いやつみたいですしね……」

敵もこちらに気付いたらしく、攻撃してきた。

カービィ「おっと……コピー能力<sup>ファイア</sup>！！」

カービィは攻撃をかわし、コピー能力で攻撃した。

「ギャアアア……」

「グアアアア……」

敵はザコらしく、あっけなく倒された。

カービィ「あっけなかった……」

グーイ「カービィさーん！」

見ると、グーイも終わらせたらしい。

カービィ「全員倒したみたい…」

グーイ「でも、何だったんでしょう…?」

カービィ「うゝん…」

?「星の戦士、カービィ…」

二人「!?!」

突然、声が聞こえた。

カービィ「誰!?!」

周りを見渡すが、誰もいなかった。

グーイ「……気のせい?」

?「いや、上だ上!?!」

二人「!?!」

上を見ると、巨大な手袋が浮いていた。

カービィ「な…なに、君!?!」

?「やっと気付いたか…私は、マスターハンドという者だ。」

グーイ「マスター……ハンド?」

カービィ「……何しにここへ？」

マスター「ハンド（以下マスター）」「この世界には、無数の平行世界：パラレルワールドがある。実は、その平行世界が危機に陥ってるのだ…」

カービィ「…いまいちよく分からないけど…」

マスター「まあ、世界を巡る旅と言えば、分かりやすいだろう」

グーイ「用は、カービィさんにそれを救ってほしいと？」

マスター「ああ」

グーイ「…どうします？カービィさん」

カービィ「うーん…」

マスター「……平行世界を救わないと、この世界にも影響が出る…と、言ったら？」

カービィ「……え？」

マスター「さっき見たことのない敵が現れただろ？あれも、影響の一つだ」

グーイ「……もし、このままだったら？」

マスター「もっと強い敵が現れるかもしれん」

カービィ「それって絶対だよね…しょうがない…」

少しだけ考えた後、カービィは言った。

カービィ「行くよ！世界を巡る旅に！！」

グーイ「頑張って下さい、カービィさん！！応援してます！」

カービィ「何言ってるの？グーイも一緒だよ？」

グーイ「へ！？い…行っても…いい？」

カービィ「うん！久々に一緒に冒険しよう！！」

グーイ「ありがとう、カービィさん！！」

マスター「決まりだな。では、自分の家に向かってくれ」

カービィ「家？なんで？」

マスター「行けば分かる」

☆カービィの家☆

カービィ「これって…」

二人は、かなり驚いていた。さっきまで無かったはずの垂れ幕があったからだ。



グーイ「いつのまに…」

カービィ「あのキャラが作ったのかな？」

すると、垂れ幕の絵が勝手に変わった。

グーイ「絵が…変わった!？」

その絵は…

『神社の周りで、弾幕勝負をしている人の絵』

カービィ「……東方の…世界…」

☆終点☆

マスター「…謎のザコ敵軍団…やはり、犯人は…」

続く…

## 1話「全ての始まり」（後書き）

はつきり言って、続けられるか不安ですが、頑張ります。ちなみに、ザコ敵はスマブラDXに登場したザコ敵です。

## 2話「東方の世界」(前書き)

更新がかなり遅れてしまいました。  
今回もかゝなりグダグタです。

## 2話「東方の世界」

カービィ「……景色が変わってる…着いたみたい」

カービィ達は、『東方の世界』へ到着した。

グーイ「うわ…本当に移動しちゃったみたい…」

カービィ「とりあえず…どうしよう…」

グーイ「そういえばカービィさん、なんでこの世界なのかが分かったんですか？」

カービィ「ん…勘？」

グーイ「おい!!」

グーイはカービィに、綺麗にツツコミを入れた。

グーイ「とりあえず、この世界について調べてみましょう」

カービィ「分かった!」

星の戦士、カービィ。

様々な世界を救い、その瞳は何を見る？

2話「東方の世界」

グーイ「カービィさん…」

カービィ「ん、何？」

グーイ「ここ、どこですか？」

カービィ達は今、完全に迷っていた。

カービィ「いや、適当に自分の勘を信じて行ったら…」

グーイ「勘って…どうするんですか？」

カービィ「うーん…ん？」

カービィは、あるものを見つけた。

カービィ「グーイ…階段があるんだけど…」

グーイ「え？」

それは、石段だった。

グーイ「なんで、こんな所に…」

カービィ「とにかく、行ってみよう！」

☆博麗神社☆

カービィ「ここは…神社？」

グーイ「どうしてこんな所に…？」

カービィ「分からない事だらけだね…」

カービィ達はしばらく考えたが、前に賽銭箱があることに気付いた。

グーイ「カービィさん。せっかくですし、旅が無事にいくように、安全祈願しましょう」

カービィ「いいけど…お金は？」

グーイ「ここにありますが」

グーイは、財布を取り出した。

カービィ「…どこにしまってたの？」

グーイ「それは、聞かないお約束です」

カービィ「でも、僕たちの世界のお金は使えるかな？」

グーイ「それなら、世界が移動した時にこの世界のお金に変わりましたが？」

カービィ「（都合いいね…）じゃあ…何円入れる？」

グーイ「じゃあ…五百円で」

カービィ達は、五百円玉2枚を賽銭箱に入れた。

カービィ「この旅が無事にすみますように…」

グーイ「主役になれますように…」

カービィ「ちょ…!？」

グーイ「冗談です」

カービィ（冗談に聞こえなかったけど…）

グーイ「さて…どうします？」

カービィ「…あれ？」

カービィは、賽銭箱の中身を見ていた。

カービィ「お金が全く入ってない…」

確かに、賽銭箱はカービィ達が入れた500円×2以外、入ってなかった。

グーイ「…神社として機能してるのかな…？」

グーイ「とりあえず、ここの人を呼んでみましょう」

カービィ「そうだね」

二人「すいませ〜ん！」

……………

カービィ「……………？」

グーイ「反応なし…」

念のためもう一回呼んだが、やはり反応はなかった。

カービィ「…どうする？」

グーイ「勝手にあがるわけにもいきませんし…少し待ってみましよう」

神社に向かってる、一人の少女がいた。

？「最近、少し冷えてきたな…」

彼女は、箒に乗って飛んでおり、一目で魔法使いと分かる格好をしている。

？「こうゆう時は、神社であつたかいお茶を飲むに限るぜ…ん？」

神社を見ると、二人のキャラがいた。もちろん、カービィとグーイである。

グーイ「…カービィさん…」

カービィ「分かってるよ…」

二人も、彼女に気付いていた。

グーイ「…どうやら、ここに来るみたいですね…」



カービィ「ちようどいいや。この世界について知りたかったし」

そして、少女は着陸した。カービィは、話をきりだした。

カービィ「え〜と…誰ですか？」

？「私？私は霧雨 魔理沙。魔法使いだぜ」

カービィ「え〜…僕はカービィ。そして…」

グーイ「グーイです」

魔理沙「……カービィ？」

魔理沙はカービィの名前に反応し、スカートから1枚の紙をとりだした。

グーイ「あの…どうして…」

魔理沙「……そうか、お前が…」

カービィ「え？」

魔理沙「…スペルカード…」

カービィ「!？」

魔理沙「恋符、《マスタースパーク》!!」

次の瞬間、二人がいた場所は光に包まれた。

カービィ「……いきなり、何するの？」

カービィ達は、魔理沙の後ろに立っていた。

魔理沙「聞いたぜ：お前が、世界を破壊する破壊者だってな！！」

二人「はあ！？」

魔理沙「幻想郷は、私が守るぜ！！」

カービィ「ちょ：ちょっと待ってよ！！」

グーイ「僕たちは、世界を救うために：」

魔理沙「問答無用！《マジックミサイル》！！」

魔理沙は、光弾を撃ってきた。それを二人はかわす。

グーイ「くっ：どうします？」

カービィ「仕方がない：少しおとなしくしてもらう！」

カービィも戦闘体制にはいる。

カービィ「みんなの平和を守るために：」

魔理沙「幻想郷の平和を守るために：」

「少しおとなしくしてもらうよ、魔法使い！！」

「少しおとなしくしてもらうぜ、ピンクボール！！」

☆? ? ? ☆

? 「計画通り…あとは巫女が来れば…」

続く…

## 2話「東方の世界」(後書き)

東方project編の開始です。作者はまだ原作をやった事がありません。(2010年1月)あくまで、漫画やプレイ動画を見ただけです。ですから、おかしい部分もありますが、ご了承下さい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6470i/>

---

星のカービィ ～イメージ世界の冒険～

2010年10月13日14時35分発行